富良野商工会議所

機関名	富良野商工会議所								
所在地	北海道富良野市本町7番10号								
電話番号	0 1 6 7 - 2 2 - 3 5 5 5								
地域概要	(1)市内人口	2万5千人		(2)市内商店街数	1 1	商店会			
事業の対象とな	(1)商店会数	2 商	店会	(2)会員数	8 7	商店			
る商店街の概要	(3)空店舗率	18.4	%	(4)大型店空き店舗		1 数			
商店街の類型	1.超広域型商店街	2.広域型	商店街	3.地域型商店街 🤇	4.近隣型	型商店街			

【事業と実施年度】

平成 13 年度空き店舗対策事業チャレンジショップ、フリーマーケット総事業費3,224千円

【事業実施内容】

1.背景

北海道の中心標が立ち「北海道のへそ」に位置する。基幹産業は複合経営を主体とする生産性の高い農業で、付加価値をつけた農産加工の振興によって発展からに、ラベンダー、「北の国か発展からに、ラベンダー、「北の国かど、方名な麓郷の森、スキー場など、10年超える観光客が訪れている。関し、地域における文化活動を広に、地域におけるの自主的創造活動を支援して、地域の活性化を図るとともに、魅力あるまりを進めている。



本事業は、以下の目的を掲げ展開した。

市民、観光客、商業者、農業者等さまざまな人々の交流の場をつくり、中心市街地の商店街ににぎわいを取り戻す。

商業の機能から、農業や観光など他産業の可能性を伸ばしていく「周辺全体の産業振興拠点」としての機能を導入していくことで地域全体の活性化を支えるまちづくりをめざす。

女性や若者、高齢者などの起業化など新たな産業の創出を支援する「インキュベート機能」の形成による中心市街地の役割の増大をめざす。

市民参加型芸術文化体験を行う場をつくり、市民活動の促進による活性化を図る。

2. 事業内容

(1)魅力ある商業誘致

場 所 相生通り商店街内空き店舗「ふれあいショップ 2001」

期 間 平成 13 年 7 月 22 日 ~ 平成 14 年 2 月 28 日

参加者 農村女性グループ「城・活きふらのネットワーク」、京子の部屋、篠原綾子、森井由香、富良野演劇工房、北海道縁峰高校

テナントの出店条件・1ヶ月単位

・商品・現金管理は自己責任

内容

- ・空き店舗を区割りし、チャレンジショップとしてテナントで参加し、作品・ 商品の展示・販売
- ・商店街情報・市民情報提供コーナーやインターネット仮想商店街コーナーも 設置

(2)芸術・文化創造発信事業

場 所 相生通り商店街内空き店舗「ふれあいショップ 2001」

期 間 平成 13 年 8 月 10 日 ~ 平成 13 年 8 月 12 日

参加者 市内小中学生

内 容

市内小中学生を対象に、新世紀のふらのに対する街づくり提案、アイディアや "こんな街にしたい"等の希望やメッセージについての作文や未来(将来)図 を絵画で募集し、優秀作品を表彰する。

(3)商店街情報提供事業

場 所 相生通り商店街内空き店舗「ふれあいショップ 2001」

期 間 平成 13 年 7 月 22 日 ~ 平成 14 年 2 月 28 日

参加者 北海道緑峰高校情報ビジネス科の生徒

内 容 ・商店街情報・市民情報の提供・発信

- ・インターネット仮想商店街の調査・研究
- ・仮想商店街ホームページ作成

(4)空き地・空き店舗を活用したイベント事業

オープニングイベント 平成 13 年 7 月 22 日 来店者 約 230 人 参加団体の商品バーゲン ・地域通貨の試験流通

ふらの商業まつり

平成 13 年 8 月 12 日 来場者 約 1,200 人

・掘り出し市 ・フリーマーケット

ふらの博・ふらの・まんきつフェス

平成 13 年 8 月 27 日

来場者 約1,000人

・屋台出店 ・ふらの市

秋の大収獲祭



平成 13 年 10 月 28 日 来店者 約 350 人

・地場産農産物の販売

クリスマスセール

平成 13 年 12 月 19 日 ~ 25 日

・リースづくりの講習会等

来場者 約 70人 わいわい祭り

平成 14 年 2 月 10 日 ~ 11 日

- ・雪中ビールパーティ
- ・フリーマーケット来場者 約 320人

感謝デー ありがとうセール 平成 14 年 2 月 24 日 約 160 人



【 効果】

1. 各事業の効果

(1) ふれあいショップ 2001

来客状況 (単位:人)

7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	合計
1,590	1,163	415	512	372	303	194	288	4,837

- 7月下旬:ラベンダー観光や北海へそ祭りの観光客の来店が多かった。
- ・ 7~8月:生鮮野菜が豊富で、地元住民の利用が多かった。
- ・ 9月以降は、主高原品等の売り上げが中心となった。
- ・ 土日の利用も多いため、10 月以降は土日を開店し、火曜日を閉店日とした。結果 として来店増となった。
- (2) "ふらの博・ふらの・まんきつフェス"は、約1,000人もの来場者があり好評であった。当日は旭川市で開催された自治労の全国大会の参加者のうち約700名が富良野市に宿泊したため、富良野の食の魅力を売り込むことができた。

また、"秋の大収獲祭"では午前中にほとんどの農産物が完売され、市民の関心の高さがうかがわれた。

【課題・反省点】

(1) ふれあいショップ 2001

7月・8月の観光シーズン等、人通りの多い時期は野菜など商品の品揃えも多く、売り上げもかなりあったが、9月の収穫期は農家も忙しく出荷が極端に少なくなり、利用者が減少した。

周辺住民のリピーターが多数できたが、車で来る買い物客にとっては店舗前の駐車場がなく不便であった。

(2) インターネット仮想商店街

計画とおりには、事業が進まなかったが、他地域の高等学校から富良野農産物及び農産加工品の注文があり、地域を越えた結びつきが深まった。

【 関連 URL】

富良野商工会議所 http://www.furano.ne.jp/furano-cci/

